

平成7年度 町内遺跡発掘調査にともなう調査概要報告書

BENZASHI	SITE		
弃指平遺跡			
HANAZONO	SITE		
花園遺跡			
HIRA	YOKOANA	BO	GUN
比良横穴墓群			
TONDA	GO	FUN	
富田1号墳			
NEWTABARU	GO	FUN	
新田原61号墳			

1996. 3

新富町教育委員会

序

新富町は宮崎県の中央部日向灘を望む気候の温暖な地であり、農業を主幹産業とした田園都市です。

町では町内各地において環境保全そのほかの諸開発が随時行なわれ、町の発展のための努力がなされています。

平成7年度も町内でのこれらの諸開発にともなう埋蔵文化財の発掘調査を実施しました。埋蔵文化財の保護・活用を図るために、関係諸事業者との事業調整を行い、これらの文化財を正確に記録・整理し、普及啓発に努力しているところです。

今回の調査成果が今後学術面をはじめ、広く生涯学習等の場でも役立つことを期待しています。

また、本調査を実施する際に関係諸機関や地元の方々にさまざまな面でご協力頂きましたことに対しまして心から感謝申しあげます。

1996. 3

新富町教育委員会
教育長 清 郁雄

例　　言

1. 本報告書は平成7年度に実施された新富町内の埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 本年度の調査体制は以下のとおりである。

新富町教育委員会	教　育　長	清　郁　雄
	社会教育課長	水　間　亮
	社会教育課長補佐・係長兼務	高　正　靜　夫
	社会教育課主事	馬　義　人
宮崎県教育庁	埋蔵文化財第1係主査	(文化財担当)
特別調査員(比良横穴墓群)	菅　付　和　樹	(県北地区調整担当)
鹿児島大学教授	小　片　丘　彦	(人骨鑑定)
九州大学教授	中　正　巳	(タケ)
九州大学院生	田　中　良　之	(歯冠分析)
	金　宰　賢　・　大　森　円	

3. 本報告書で使用する方位は磁北である。

本文目次

第Ⅰ章 町内遺跡発掘調査概要について	1
第Ⅱ章 弁指平遺跡	3
第Ⅲ章 花蘭遺跡	5
第Ⅳ章 比良横穴墓群	7
第Ⅴ章 富田1号墳	11
第Ⅵ章 新田原61号墳	13

挿図目次

第1図 平成7年度町内遺跡発掘調査地 (S=1/75000)	2
第2図 弁指平遺跡位置図(S=1/20000)	3
第3図 弁指平遺跡調査区図(S=1/1500)	3
第4図 花蘭遺跡位置図(S=1/20000)	5
第5図 花蘭遺跡調査区図(S=1/600)	5
第6図 比良横穴墓群位置図(S=1/20000)	7
第7図 比良横穴墓群遺構図(S=1/200)	7
第8図 比良2号横穴墓実測図(S=1/60)	9
第9図 富田1号墳位置図(S=1/20000)	11
第10図 富田1号墳墳丘測量図 (S=1/600)	12
第11図 新田原61号墳位置図(1) (S=1/20000)	13
第12図 新田原61号墳位置図(2)	13

図版目次

図版1 弁指平遺跡全景(南から)	4
図版2 現場視察	4
図版3 第3トレンチ作業状況	4
図版4 第2・3トレンチ調査区	4
図版5 第4・5トレンチ調査区	4
図版6 石検出状況	4
図版7 調査区西側(南から)	6
図版8 調査区中央(西南から)	6
図版9 調査区東側(南から)	6
図版10 溝状遺構検出状況	6
図版11 土坑検出状況	6
図版12 土坑	6
図版13 比良横穴墓群航空写真(南から)	8
図版14 比良横穴墓群遠景(南から)	9
図版15 比良1号横穴墓	9
図版16 比良2号横穴墓入口	10
図版17 比良2号横穴墓(羨道から玄室へ)	10
図版18 比良2号横穴墓人骨出土状況	10
図版19 比良2号横穴墓剥突痕検出状況	10
図版20 比良3号横穴墓閉塞石検出状況	10
図版21 比良3号横穴墓玄室西側	10
図版22 第2トレンチ(北東から)	12
図版23 第4トレンチ(南から)	12
図版24 調査区と墳丘(東から)	14
図版25 周堀と埴輪検出状況(北から)	14

第Ⅰ章 町内遺跡発掘調査について

新富町の位置と環境

新富町は宮崎県の中央部の日向灘を臨む台地から沖積地にある。人口は18,000人前後で主幹産業は農業である。

町域は一ツ瀬川を挟んで西は西都市に、南は佐土原町にいたり、北は高鍋町と接する。町の主体を占める敷地は田畠や森林があるが、新田原台地の中心部には新田原自衛隊基地があり、基地の町である新富町のイメージがある。

当町での最古の人類の生活痕跡は旧石器時代の石器類に認められているが、それらの石器類は表探資料であるため年代等はさだかではない。

縄文時代の遺跡も瀬戸口遺跡、東牧遺跡などで確認され、集石遺構などとともに土器、石器類が検出されており、縄文早期頃からの遺跡が散見できる。

弥生時代になると列島各地での人の交流が活発になるよう、それにともなう遺跡が急増する。今別府遺跡は本県の弥生時代の遺跡でも最古の一つと思われる土器が表探されており、興味深い。またV字溝が検出された弥生時代前半から中期初頭の鎧遺跡や沖積平野に展開する鬼付女西遺跡・北田遺跡、台地縁辺部に展開する新田原遺跡、七又木遺跡などがある。

古墳時代になると沖積平野と台地沿いに遺跡の範囲はさらに拡大し、集落は七又木遺跡・観音山遺跡などの初期の集落遺跡から後期の上歯遺跡、北田遺跡、藤掛遺跡などある。また川床遺跡では弥生時代末から古墳時代初頭の墳墓が200基程度検出されているが、古墳時代になると町内全域に幾つかの古墳群が造営され、それらを総称して指定史跡新田原古墳群・富田古墳群として保護している。

平成7年度町内遺跡の概要

平成7年度は諸開発のなかでも小規模開発が多く、なかでも諸開発等のための土砂採集が町内各地で実施された。大規模開発による現場の長期専従はないにしてもこれらの小開発による協議等に難渋した。土砂採取は町内で確認されただけで5箇所以上あり、このうち調査の対象となったのが比良横穴墓群である。

宅地建設等についても上記の土砂採取と関連する形で多く進行しており、宅地造成にともなう埋蔵文化財の調査があった。新田原61号墳周堀確認調査では古墳の周堀についての影響が考慮されたため、緊急の確認調査が実施された。

河川改修・道路造成等は他市町村と同様に町内各地で計画実施され年を通じて2・3箇所は工事がある状況であった。代表的なもので、新富町文化施設建設にともなう道路整備での弁指平遺跡の調査や鬼付女川河川改修にともなう志戸平遺跡の調査（県文化課対応）があった。

他に都市区画整理事業関係で富田1号墳の調査が実施されたが、周辺には連続してつづくこの丘陵に点在する古墳があるため、今後の調査保護の必要があるとともに、町街地のなかで文化財に親しむ空間として本古墳の重要性を再確認すべきである。



1. 比良横穴墓群 4. 花園遺跡
2. 富田1号墳 5. 新田原61号墳
3. 弁指平遺跡 6. 志戸平遺跡

第1図 平成7年度町内遺跡発掘調査地 (S=1/75000)

第Ⅱ章 弁指平遺跡

位置と環境

弁指平遺跡は国道10号線の西に位置し、通称一ノ池とよばれる溜め池近辺の傾斜地から舌状台地平坦面にある。現在は造成工事等で旧地形が改変されており、今回調査地点についても過去の町道建設の際に何基かの横穴墓が破壊されたとの確認がされているため、この近辺の埋蔵文化財は注意を要した。

遺跡詳細分布調査では台地上を弁指平遺跡と称しており、今回の調査地はその周辺地になるが、上述のような理由により、遺跡の範囲である可能性が高いため、周知の遺跡の周囲として確認調査した。

調査原因と期間

新富町では本年度から総合文化施設建設設計画が本格的に開始され、今回の調査地は文化施設予定地にアクセスする道路（カルチャーロード）の建設のための工事に先立ったものである。

調査は横穴墓等の遺構が存在するとと思われる傾斜地を工事実施部分についてのみ表土の除去をし確認調査した。

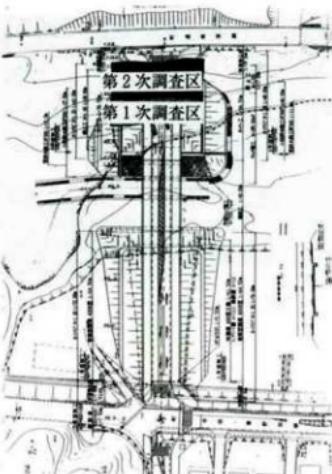
一次調査は平成7年6月1日～7日。二次調査が11月1日～3日である。

調査の結果

今回の調査では1次調査でも2次調査でも主たる遺構が検出できなかった。しかしながら、1次調査で小規模な土砂崩れ跡がみうけられ、この土層から須恵器片14点と鉄器片2点が発見された。したがってこの周囲に古墳時代の遺構が検出されることはあるが、町道建設において破壊された可能性も否めない。今後の調査で隨時確認したい。



第2図 弁指平遺跡位置図 (S=1/20000)



第3図 弁指平遺跡調査区図 (S=1/1500)



図版1 弁指平遺跡全景（南から）



図版2 現場 視察



図版3 第3トレンチ作業状況



図版4 第2・3トレンチ調査区



図版5 第4・5トレンチ調査区



図版6 石検出状況

第Ⅲ章 花園遺跡

位置と環境

花園遺跡は新田原台地の縁辺部に位置し、祇園原古墳群の末端に位置する。当遺跡が立地する現在の土地利用は畑地であるが、昭和43年以前は集落があり、新田原基地との関係で現在の春日地区に集落移転している。したがって、近年まではもともと人家が調査区にあったらしくその集落の歴史は古い。

調査原因と期間

民間業者の土砂採集に際して、周知の遺跡である花園遺跡の範囲であるため、遺跡の内容を確認するために表土の除去をおこなった。

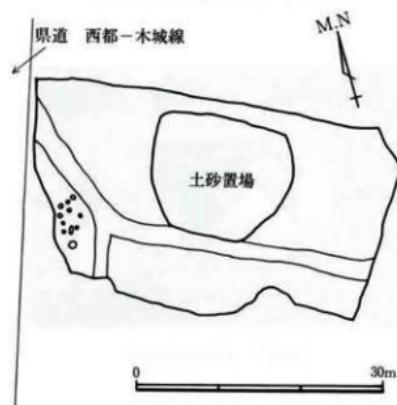
期間は平成7年度7月12日から21日までの実日数7日間である。

調査の結果

調査の結果、溝状遺構1条と土抗2基が検出された。遺物については古墳時代の土器片のほか、青磁片などが採集されている。土抗については年代・機能とともに不明で溝状遺構については近現代の可能性が非常に高いものであった。しかしながら、当地は近隣する遺跡として、有峰城や春日神社の旧地など関係の深い遺構があり、青磁片などが検出されている状況を考慮すると今後の調査によって、さらなる遺跡の具体像が追う必要がある。



第4図 花園遺跡位置図 ($S=1/20000$)



第5図 花園遺跡調査区図 ($S=1/600$)



図版7 調査区西側（南から）



図版8 調査区中央（西南から）



図版9 調査区東側（南から）



図版10 溝状遺構検出状況



図版11 土抗検出状況



図版12 土抗

第Ⅳ章 比良横穴墓群

位置と環境

比良横穴墓群は国道10号線の西側で鬼付女川を臨む舌状丘陵地斜面にある。ところで、日置川、鬼付女川沿いの丘陵地や高鍋町の日向灘を臨む丘陵地には横穴墓が小グループを構成して点在しており、代表として隅ヶ迫横穴墓群、永谷横穴墓群などがある。また周囲には弥生時代から古墳時代の集落遺跡が点在しており、これらの横穴墓群はこういった集落を営んだ人々の墓地であっただろう。

調査原因と期間

平成7年8月5日に町民の方からの連絡により遺跡が発見され、土地所有者と土砂採取業者との協議をもった。その結果土砂採取の直接原因が土砂崩壊による危険防止があることにより土砂崩壊部に関しては横穴墓の全面記録保存で対応することとなった。

調査期間は平成7年8月8日から9月10日と11月29日から12月23日まで調査日数44日間である。

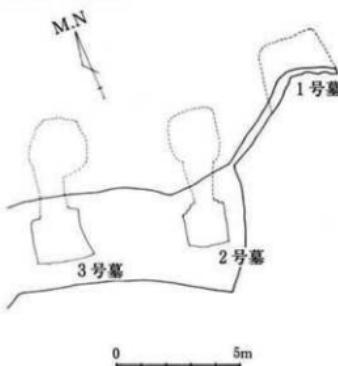
調査の結果

調査の結果、本横穴墓で3基の横穴墓が発見され、1号横穴墓は玄室が半壊状態であったが、2・3号墓は比較的の保存状況が良好であった。特筆されることは、2号横穴墓で約5体分の人骨が発見され副葬品として33個もの須恵器が検出されたことである。またそれぞれの横穴墓の玄室の壁や床には一般的な横穴墓の調整痕のほかに調整後にニードル状工具を使用した刺突痕が多量に見つかった。今後同様事例を探っていきたい。

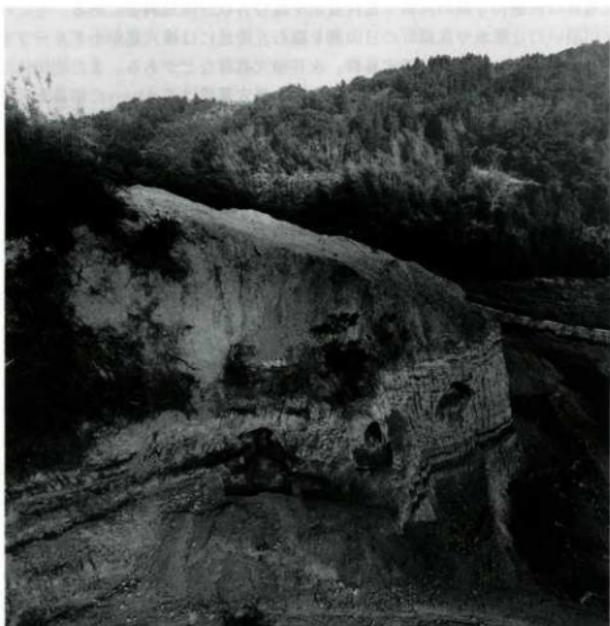
本横穴墓の造営期は須恵器の年代観から7世紀前半頃と考えている。



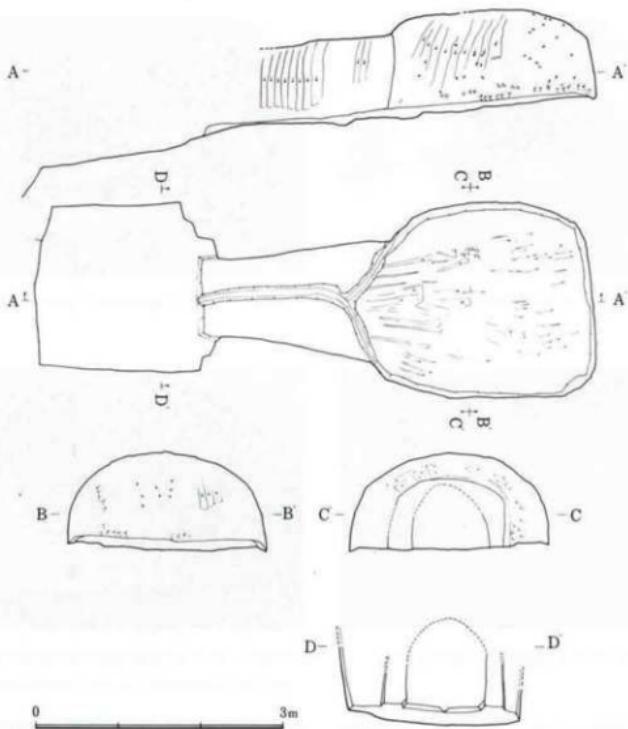
第6図 比良横穴墓群位置図 (S=1/2000)



第7図 比良横穴墓群遺構図 (S=1/200)



図版13 比良横穴墓群航空写真（南から）



第8図 比良2号横穴墓実測図 ($S=1/80$)



図版14 比良横穴墓群遠景（南から）



図版15 比良1号横穴墓



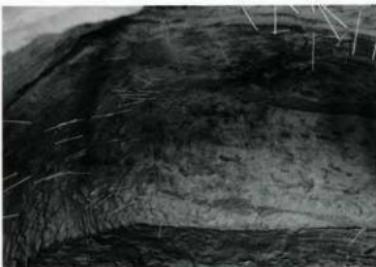
図版16 比良2号横穴墓入口



図版17 比良2号横穴墓（羨道から玄室へ）



図版18 比良2号横穴墓人骨出土状況



図版19 比良2号横穴墓刺突痕検出状況
(白い棒は刺突痕のマーキングのため使用した)



図版20 比良3号横穴墓閉塞石検出状況



図版21 比良3号横穴墓玄室西側

第V章 富田1号墳

位置と環境

富田1号墳は新富町の町街地にある。町の都市区画整理事業の進行にともなって、国道10号線周囲の町街地の景観は大幅に改変され、旧地形は面影を僅かに残すのみである。富田1号墳の周囲は開発前の地図によると新田原台地の舌状丘陵部が観音山にまでいたる島状の独立丘陵の連続であったことがわかる（第9図）。富田1号墳はこのような島状丘陵部の一部に築造してあり、他にも下屋敷古墳や幾つかの古墳がこれらの丘陵に点在している。

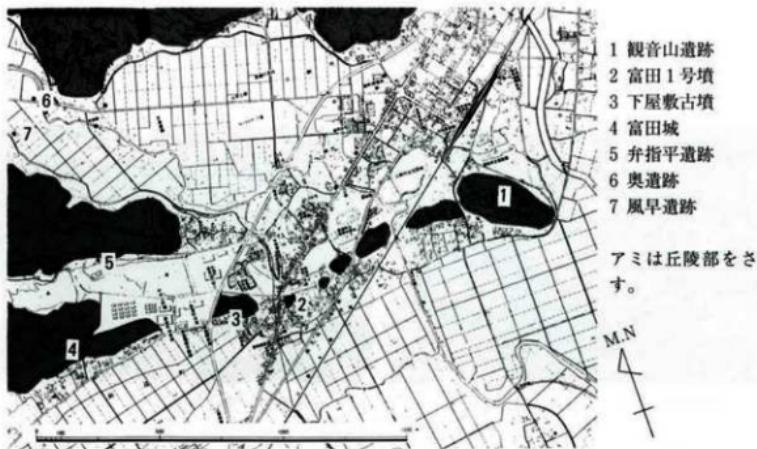
調査原因と期間

富田1号墳は県の指定古墳であるが町の都市区画整理事業にともなって県指定地番内である本古墳についても取り扱いが協議された。地番の所有者が富田八幡神社であり都市区画整理事業によって指定地番の減歩率を負担しなければならないことによる。そこで社会教育課と都市計画課は協議を行い、古墳の地番についての分筆買取など方策を練り、最終的に墳丘と周堀を含んだ古墳の保護のためにその範囲を正確に調査する必要があった。

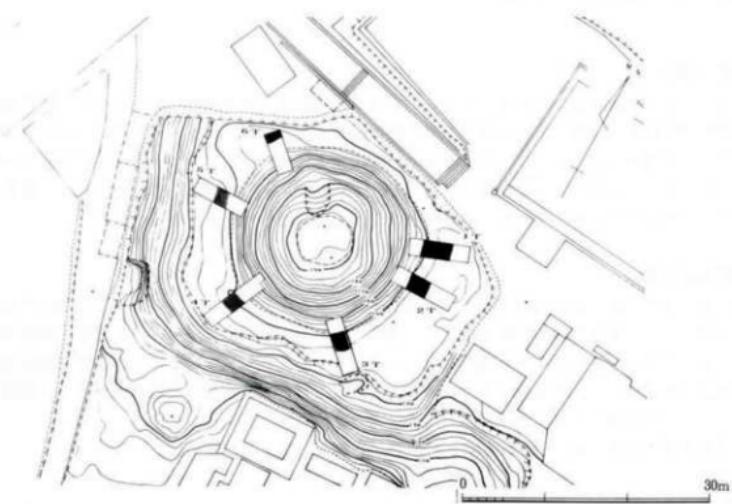
調査期間は平成7年9月13日から10月31日で、調査日数は25日である。

調査の結果

調査は古墳の周囲に合計6本のトレンチを設定し墳丘の規模と周堀の確認を実施した。その結果墳丘の規模が径22~23mで周堀の幅が2~3mであった。出土遺物は土師器、須恵器片のほかに石斧・石錘が検出されている。古墳の造営は6世紀代の可能性が高い。本調査は来年度継続調査の予定である。



第9図 富田1号墳位置図 (S=1/20000) (昭和50年代まで)



第10図 富田1号墳墳丘測量図 ($S=1/600$)



図版22 第2トレンチ（北東から）



図版23 第4トレンチ（南から）

第VI章 新田原61号墳

位置と環境

新田原61号墳は祇園原古墳群の北端に位置し、墳丘現存径約10mの円墳である。新田原台地の高位台地面から中位台地面にいたる部分に祇園原古墳群は造営されているが、61号墳はその斜面部に位置している。61号墳南側は昭和60代頃に土砂採取があり、急斜面になっている。最も近い前方後円墳は59号墳である。

調査原因と期間

本地区で民間の宅地造成が計画され、古墳周囲に近接することにより調査をおこなった。また調査後は盛土保存で了解を得ている。

期間は平成7年12月23日から28までの4日間である。

調査の結果

調査は宅地造成地で61号墳の周溝該当部分についての確認を目的とし、盛り土部分で造構に影響がない部分については実施しなかった。調査の結果、墳丘径が約15m程度で幅約2mの周堀が検出され、堀底より埴輪片が検出された。埴輪片はすべて円筒埴輪であるが、祇園原古墳群で9基目の埴輪採用古墳であることが特筆に値する。埴輪の各部形態の特徴では新田原58・59号墳の埴輪に類似している。他に須恵器片が小量出土しているが、この古墳の年代は埴輪の形態などから6世紀代のものではないかとおもわれる。



第11図 新田原61号墳位置図(1) (S=1/20000)



第12図 新田原61号墳位置図(2)



図版24 調査区と墳丘（東から）



図版25 周堀と埴輪検出状況（北から）

報告書抄録

ふりがな	べんざしひら はなぞの ひら とんだ にゅうたばる
書名	弁指平遺跡 花園遺跡 比良横穴墓群 富田1号墳 新田原60号墳
副書名	平成7年度町内遺跡発掘調査概要報告書
卷次	
シリーズ名	新富町文化財報告書
シリーズ番号	第20集
著者名	有馬 義人
編集機関	新富町教育委員会
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字上富田7491番地
発行年月日	1996年3月31日

所取遺跡名	所在地	市町村コード	道路コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
弁指平遺跡	上富田字弁指平					1995 0501~07 1112~20	550m ²	道路建設
種別	主な時代			主な遺構			主な遺物	
散布地	古墳時代			土砂崩れの痕跡			須恵器 鉄器片	
所取遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
花園遺跡	新田字花園					1995 0721 ~0730	800m ²	土砂採集
種別	主な時代			主な遺物			種別	
散布地	古墳時代 中世			溝状遺構			須恵器、土師器、 青磁片	
所取遺跡名	所在地	市町村コード	道路コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
比良横穴墓群	三納代字比良					1995 808~911 1205~25	300m ²	土砂採集
種別	主な時代			主な遺物			種別	
古墳	古墳時代			横穴墓3基			須恵器、土師器 馬具、耳環、鐵鏡、刀子	
所取遺跡名	所在地	市町村コード	道路コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
富田1号墳	三納代字八幡					1995 0910 ~1010	86m ²	都市区画整 理
種別	主な時代			主な遺物			種別	
古墳	古墳時代			円墳の周囲			須恵器、土師器 石錘、石斧	
所取遺跡名	所在地	市町村コード	道路コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
新山原61号墳	新田字東股					1995 1226 ~1228	20m ²	宅地造成
種別	主な時代			主な遺物			種別	
古墳	古墳時代			円墳の周囲			須恵器、土師器 埴輪	
							本古墳群で7基目の埴輪 採用古墳の確認	

新富町文化財調査報告書 第20集

平成7年度 町内遺跡発掘調査にともなう
調査概要報告書

弁 指 平 遺 跡
花 園 遺 跡
比 良 横 穴 墓 群
富 田 1 号 墳
新 田 原 61 号 墳

発行年月日 1996年3月
発 行 宮崎県新富町教育委員会
印 刷 (有)印刷センタークロダ